

(2) よく観察されるその他の生物や 指標生物に似た種など

磯には非常にたくさんの生物がいます。調査中には指標生物以外にも様々な種類の生物が見つかるはずですが、このような生物たちも磯の生態系を構成している大切な仲間です。

たくさん生息している生物種のごく一部ですが、とくによく観察される生物たちに登場してもらいました。

潮上帯～潮間帯上部に生息する生物

アラレタマキビ



殻長：～8 mm
タマキビガイに似るが殻表の肋が明りょう。潮上帯に生息。

マルウズラタマキビ



殻長：～15 mm
潮上帯～潮間帯上部に生息。

タマキビ



殻長：～20 mm
潮上帯～潮間帯上部に生息。

イワフジツボ



殻径：～10 mm
潮間帯上部に群生する。

カサガイ類など

ベッコウガサ



殻長：～40 mm
マツバガイと生息場所が重なるが、より上部で観察される。

カスリアオガイ



殻長：～25 mm
アオガイより円形に近く、殻頂も高い。潮間帯の上部近辺でよく観察される。

キクノハナガイ



殻長：～20 mm
放射肋に丸みがありさらに細い肋もある。

ケハダヒザラガイ



体長：～60 mm
殻板は小さく、左右にとげ状の毛が生えている。

二枚貝・巻貝

コウロエンカワヒバリガイ



殻長：～30 mm
河口域など塩分の低いよごれた環境で群生する。オセアニアが原産の外来生物。

アマガイ



殻長：～18 mm
殻は半球形で、体色は緑味を帯びる。

イシダタミ



殻高：～25 mm
殻表の石だたみ状のかりゅうが持ちょう。殻は暗緑色で、黄、オレンジ、赤色のかりゅうを持った個体も多い。

スガイ



殻幅：～30 mm
殻表にはカイゴロモという藻類が生えている場合が多い。

カニ・イソギンチャク

イソガニ



こうらのはば：
～30 mm
体色にあまり変異はなく、むらさき味をおびた個体が多い。

ヒライソガニ



こうらのはば：
～25 mm
こうらが平たん。色さい、模様が個体によって大きく異なり、多様。

ミドリイソギンチャク



直径：～40 mm
触手（しょくしゅ）はピンクから緑色まで変化に富む

ウメボシイソギンチャク



直径：～30 mm
あざやかな赤色。

大型生物と危険な生物

マナマコ



全長：～30 cm
転石が多い海岸や
タイドプールで観
察される。

アメフラシ



全長：～30 cm
海藻の多い潮間帯下部やタイド
プールで観察される。

イトマキヒトデ



全長：～10 cm
潮間帯下部の転石帯～数10 m
の岩場まではば広く生息する。

【危険な生物】

潮だまりなどで観察される、ひれに毒の
とげを持った魚です。絶対にさわらない
ようにしましょう。

ハオコゼ



全長：～12 cm
赤いまだら模様のひかくてき小
さな魚です。背びれ、腹びれ、
しりびれに毒があります。



全長：～20 cm
口にはひげがあって、体の両面
に2本の黄色の線が入っている
ナマズによく似た魚です。背び
れと胸びれに毒があります。

ハオコゼの写真は、大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館）より提供いただきました

海藻類

イワヒゲ



高さ：～15 cm
春から初夏にかけて生育する。基部から細い円柱状の藻体が密生して生える。

イロロ



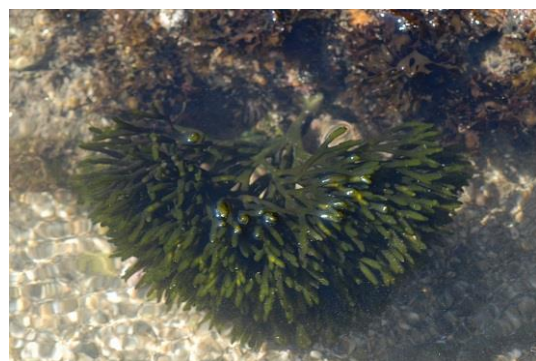
高さ：～25 cm
薄くて平たい枝が枝分かれする。藻体は膜（まく）質で、手ざわりはやや革質。

タマハハキモク



高さ：
～100 cm
潮間帯下部に生育する。付着器は平たい盤状。気ほうは球ないし卵形。

ミル



高さ：～40 cm
潮間帯下部～潮下帯に生育する。円柱状の枝が二またに分枝し、末広がりになっている。